

◆ソマリヤ自衛隊派兵に呉現地で連日の抗議行動

岩国では一二月に新住宅市街地開発法に基づく愛宕山開発事業の中止を、一月二八日から三月一四日まで、麻生政権のソマリヤ派兵に抗して、抗議文送付、海自呉地方総監部申入れ、街宣、平和船団での直接抗議など連続行動であった。ピースリンク結成二〇周年行事と重なり、しかも湯浅一郎さんの首都圏異動も重なり大変感慨深い二ヶ月であった。思い起こせばピースリンクは、中曽根政権との対決や反トマホーク運動を経て、一九八九年二月二五日、嵐のような天気の中、旧勤労会館（現・ビューポート）での故山川暁夫さん記念講演を持って結成した。三月七日の結成二〇周年記念シンポには、関西共同行動、米軍犯罪被害者救援センター、新しい反安保をつくる実行委員会、派兵チェック編集委員会の仲間も駆けつけてくれた。

一四日の現地行動では、関西共同行動、ピースアクションあいちの仲間が駆けつけた。通常午前中に出港するのだが、麻生首相出席のため異例の午後出港。前日の雨は上がったものの、強風と高波。港内であればとの条件で一二時前、ボートを下ろした。海上でアピールを始めてしばらくして、五隻の平和船団のうち一隻が転覆。海上保安庁に助けられ、無事だったが以後の海上デモを中止し、四隻のゴムボートは撤収し、エンジン付きの一隻のみで約三時間、派兵反対を訴え続けた。午後一時麻生出席の下での式典開始。陸上では抗議の声をあげた。一四時五分、一隻目の「さざなみ」が汽笛を上げ出港、続いて「さみだれ」が出て行った。海上の荒波は続き近づくこととはできなかつたが、拡声器から怒りを込めた「行くな！」との声が響き渡った。一四時三〇分には撤収、広島島の「湯浅一郎さんを送る会」に合流した。午後五時半からの湯浅さんの送別会には、運動の各分野の闘士七〇名が結集した。さらに、一七日には護衛艦「あけぼの」が対テロ作戦アプガン占領軍支援のための補給艦「ときわ」の護衛のため、呉を出発した。抗議文を首相官邸に送付した。

（久野成章／ピースリンク広島・呉・岩国）

広島・呉・岩国

定

北海道

◆アイヌ民族の権利を回復するための試み二つ

三月二〇日、今年もピースウォークを行なう。今年のテーマは「戦争をやめろ！アプガニスタン・イラク・パレスチナに平和を！」。それ以外にも、ソマリヤ沖への派兵や軍事費を減らせ、など、とにかく言いたいことを言うスタイルにした。参加者は四〇〇人。出発前の集会の途中から雪が降り始め、吹雪状態になる。雪のせいか、歩くスピードもいつもより早め。おまけにオマワリが珍しく信号を全部青にして、ピースウォーク優先の交通警備をしたので、ウォークも三〇分ほどで終わってしまった。

雪にもかかわらず予想以上の人が参加したのは、一週間前の三月一三日に行った「抵抗する勇氣——戦争を拒否するアメリカの若者たち」の集会の影響があるかもしれない。この集会にも、私たちの予想を上回る二〇〇人ほどの人が参加した。湾岸戦争に行くことを拒否したジェフさんの話も、米軍基地の集まるテキサス州サン・アントニオで基地が作りだす自然と命の破壊を止めようとしているディアナさんとジルさんの話も、とても良かった。とくにディアナさんたちの属する地域労組（サウス・ウエスト・ワーカーズ・ユニオン）の活動は、基地問題だけでなくメキシコからの移民や先住民などが一緒に住む地域をどう作っていくか、軍事と経済のグローバル化に対して地域でどんな活動をするのかという点で、とても参考になった。そして二〇代の若者が自分たちの活動について、きちんと説明できることにも驚いた（こんなことに驚いてはいけないが！）。

三月一三日の集会も二〇日のピースウォークも、政党（民主党や共産党、社民党）の枠を超えていくつかの団体が共催したものだ。だから、三月一三日の話聞いて、私のように「よし、俺も気合を入れなおすぞ」と思った人がピースウォークに来てくれたのではないかと、思っている。人が多くてよかった。

点

それにしても、去年のG8でオマワリ（札幌中央署警備課）と何度も打ち合わせをしたので、向こうは変に親しげに話して、ウンザリする。（越田清和／ほっかいどうピースネット）